

モード Mode は語る

中野 香織

混沌・逸脱に何を見いだす

フィットネスウエアのブランド「ルルレモン」が発表した2024年のグローバル・ウェルビーイング・レポートによると、先進国の若者は身体的、精神的、社会的な健康を維持しようとする過度な努力で、かえってストレスや疲労感を増やす「ウェルネス疲れ」に陥っているという。

ウェルネスとは、心身の健康を基盤として、生きがいや尊厳といった総合的な視点から心身ともに充実したライフスタイルの実現を目指すことである。これを巡る情報もビジネスも過多になっているため、振り回



ダリは無意識を表出させる「ムニ」より人間性回復を目指した

されて燃え尽きるという皮肉な現象が起きているわけである。

ウェルネス疲れを癒やす方策とし

若者の「ウェルネス疲れ」

て「自分に優しく」という言説も飛び交うが、きれいごとはむなしく響くだけであろう。むしろ、この疲れはホラー系映画の増殖、斧（おの）投げバー、超激辛料理といった一見、反ウェルネスに見えるエンタメの流行とも関係がありそうだ。秩序や健全さという理想からとりこぼされてきた混沌や逸脱の部分を回復したいという野性的な願望が見える。

かつての芸術家はこの問題を極端な形で提示してきた。無意識を表出させることにより人間性回復を目指したダリのシュールレアリスム。動

揺により生の感覚を取り戻すことを目指すアントナン・アルトーの残酷演劇。これらが一定の評価をされ続けていることから察するに、人間に真の深い満足を与えるヒントは、合理的な平穩の中のみではなく、むしろ限界を超えようとする泥くさい奮闘の中に見いだせるのではないか。

AI（人工知能）などが生活の多くを効率よく最適化していく未来に向けてウェルネスを考えるとしたら、無秩序や逸脱、矛盾や不完全性をも抱合する人間が生きる社会のあり方を考える必要があるだろう。もちろん美しいウェルネスが謳（うた）われるのもいい。そこからとりこぼされた人間的要素から、新しいアートが芽吹くであろうから。